

# イギリスを「イギリス」と呼ぶのはなぜ？

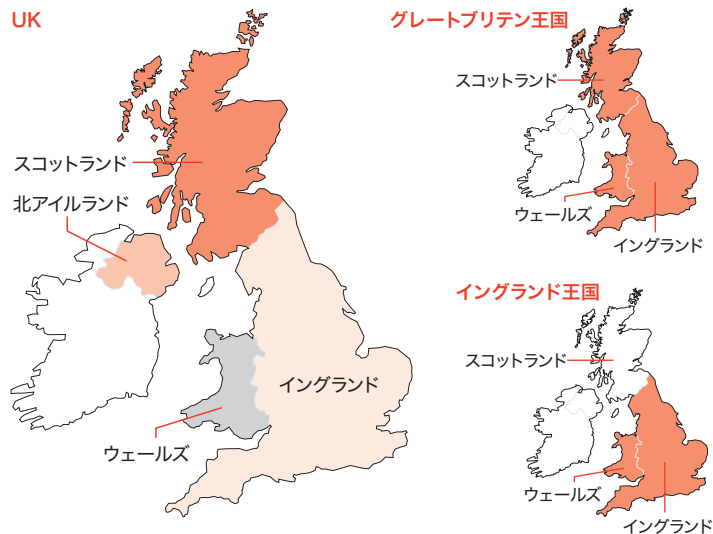
アメリカを英語で表記すると“America”，フランスは“France”，ではイギリスは？ 翻訳サイトで「イギリス」を英訳すると、表示されたのは“the U.K.” “United kingdom” “Britain”。イギリスという英語はないのだ。

## 🌐 イギリスと呼ぶのは日本人だけ

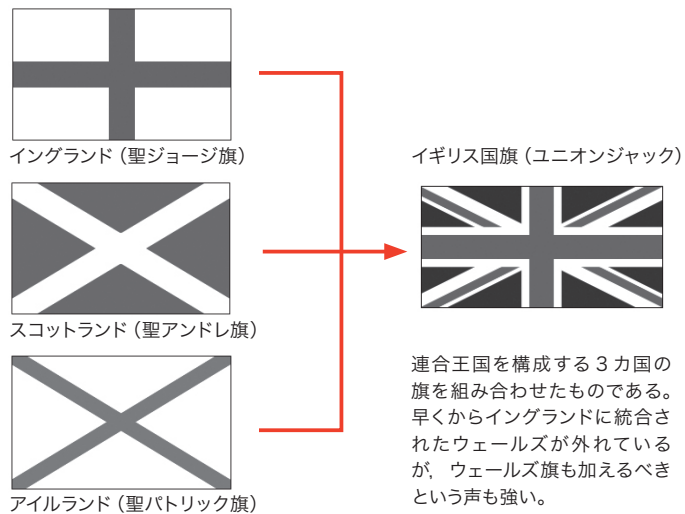
イギリスを「イギリス」と呼ぶのは日本人だけで、この呼び名は海外では通じない。それでは**イングランド (England)** と呼べばよいのかというところも正確ではない。イギリスは4つの国 (Country) で構成されており、イングランドはその一つにすぎないからだ。イギリス北部 (スコットランド) に住む人に「Are you English?」と尋ねても、彼らは「No, I'm Scottish.」と答えるだろう。300年ほど前までは、スコットランドはイングランドとは別の王が治めるブリテン島北部の独立国であり、イングランドはブリテン島南部を領有していた王国だった。1707年、両国は統合され、「グレートブリテン王国」が成立する。19世紀にアイルランドを併合すると「グレートブリテンおよびアイルランド連合王国」、さらにアイルランドの南部が独立すると、現在の「**グレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国 (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)**」が正式名称となる。ただ、これでは長いので国際的には略称である「**UK**」が一般的に使われている。

それでは、いつ頃からなぜ、日本人はこの国をイギリスと呼び始めたのだろうか。これは、イギリス船が初めて日本に来航した鎖国が始まる前の江戸時代初頭まで遡る。この頃、すでに日本は

## イギリスを構成する国



## イギリス国旗 (ユニオンジャック) の成り立ち



## ゲルマン民族・ラテン民族・スラブ民族の違い 民族って何だろう？

日本国民（日本国籍を持つ人）のうち、98.5%は日本民族であり、日本国民のほぼ100%は日本語を話す。国民・民族・言語がほぼ一致しており、日本で暮らす人々はそれを当たり前のように受け止めている。しかし、世界の多くの国ではこの当たり前はあてはまらない。

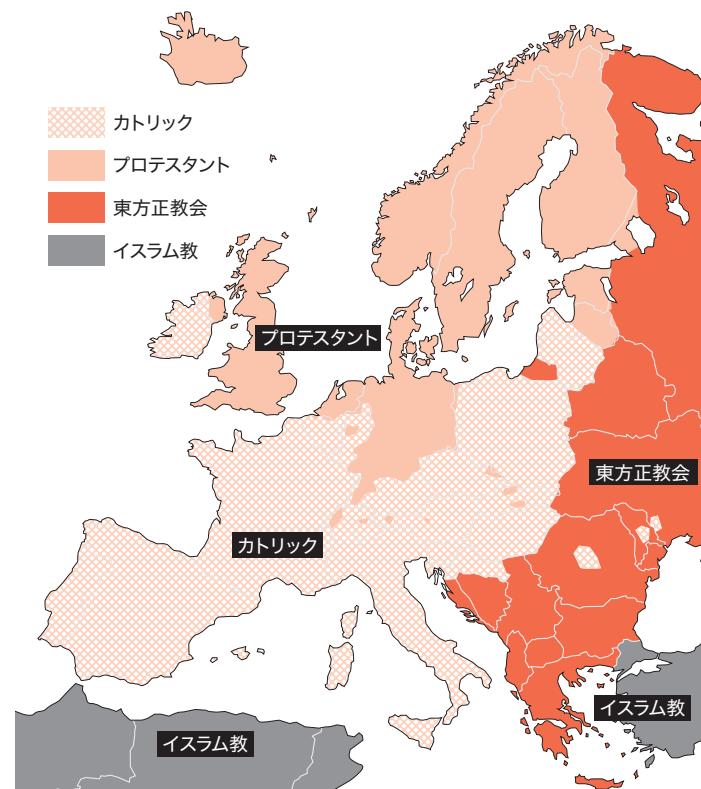
### 民族とは

**民族**とは言語・宗教・生活習慣などの文化を共有する集団をいう。多くの辞書や教科書では概ねこのように解説されているが、民族は歴史や政治など状況の中で離合集散を繰り返して形成された複雑多岐な存在で、永続的・固定的なものではなく、人種以上に定義が厄介である。民族に類似する語句として、種族、部族、語族、国民などがあり、英語にも、people, ethnic, ethnicity, group, nation など民族に相当する語句がいくつかある。それぞれの意味合いや用法は微妙に異なるが、その違いは明確ではなく、ニュアンスが重なる部分が多い。平凡社大百科事典には、「民族とは何かという問いに対しては、きわめて多くの答えが存在しており、統一的な見解を引き出すことが困難である」という説明がまず最初にあるくらいだ。

ヨーロッパの民族を例に見てみよう。ヨーロッパの民族には、インド・ヨーロッパ語族に属するゲルマン系、ラテン系、スラブ系の3つのおもな系統がある。これら3民族は、その特色を居住地域、言語、宗教（キリスト教の3大宗派）などの違いから次のように要約されることが多い。

・**ゲルマン民族**（北西ヨーロッパーゲルマン系言語ープロテスタント）

ヨーロッパの宗教分布



**カトリック** ローマ帝国の国教として成立。ローマ教皇を頂点に司教ー神父ー信者と続くピラミッド組織で、伝統や儀式を重んじる。

**プロテスタント** 16世紀の宗教改革により、カトリック教会を批判する形で誕生。聖書だけを信仰のよりどころとし、像や絵画などの偶像崇拝をしない。数百の会派が独立して活動している。

**東方正教会** 1054年にカトリック教会から分離し、コンスタンティノープル大司教のもとに成立。現在はギリシャ正教、ロシア正教、ルーマニア正教など国や民族ごとに正教会を形成している。